



# 森林・林業の現状と 中部管内国有林の取組

中部森林管理局長 佐伯 知広

資料1 森林・林業・木材産業の現状と課題

資料2 中部の国有林

資料3 最近の治山事業の取組状況

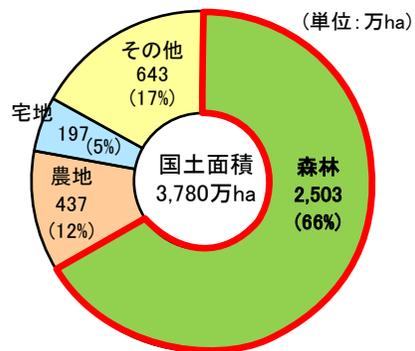
# 森林・林業・木材産業の 現状と課題

# 我が国の森林と木材 ～育てる時代から循環利用の時代へ～

現 状

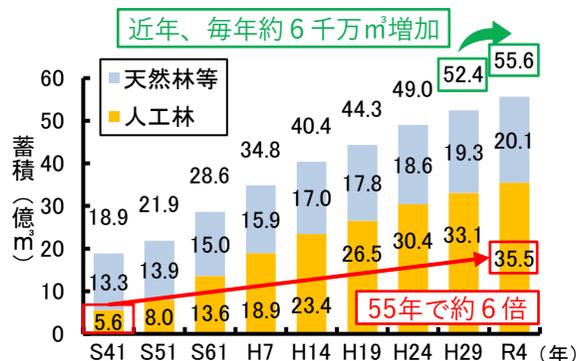
- 我が国は世界有数の森林国。国土の約3分の2が森林（森林面積：約2,500万ha、人工林面積：約1,000万ha）。面積ベースで人工林の6割が50年生を超えて成熟し、利用期を迎えている。
- 木材供給量については、国産材の供給量が近年増加傾向にあり、令和5年の木材自給率は43.0%。

## 国土の2/3は森林



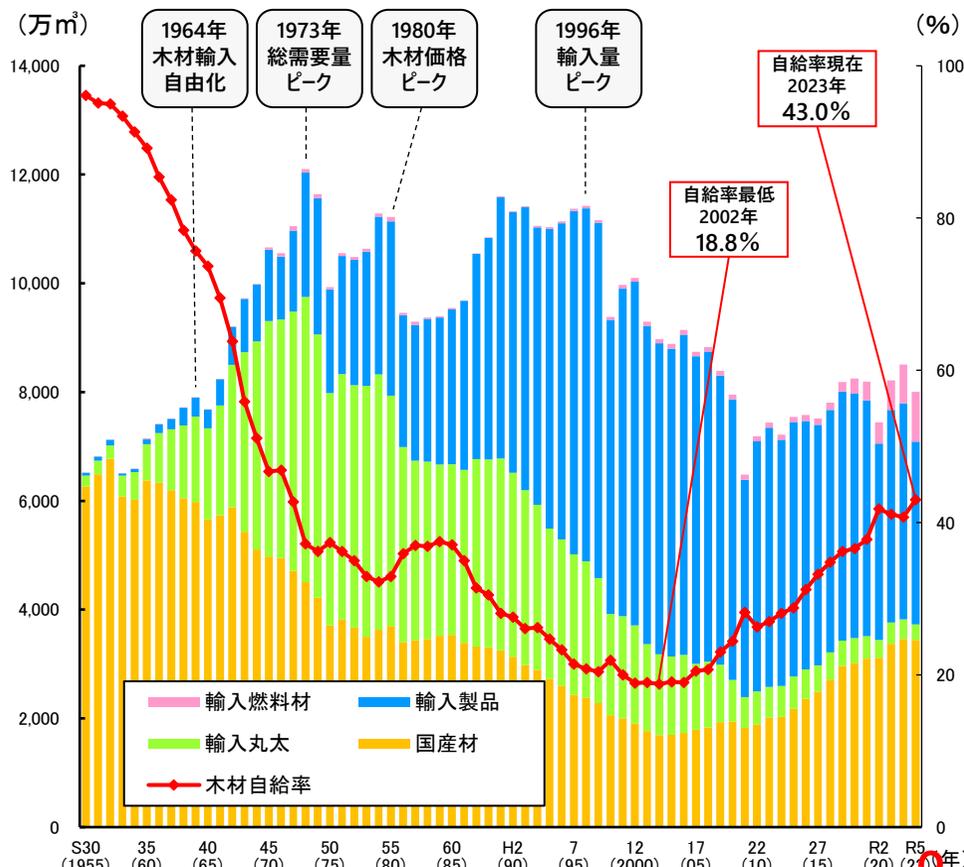
資料: 国土交通省「令和7年版土地白書」  
注: 計の不一致は、四捨五入による。

## 蓄積は年6千万m<sup>3</sup>増加



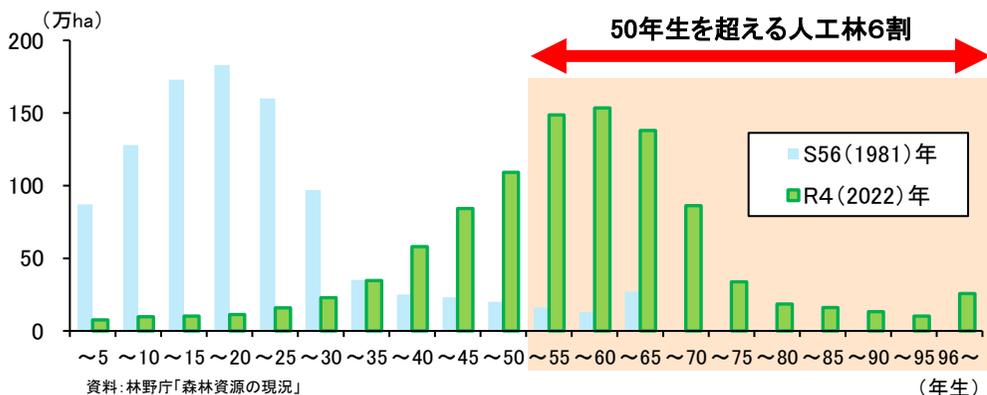
資料: 林野庁「森林資源の現況」(各年の3月31日現在の数値)  
注: 総数と内訳の計の不一致は、単位未満の四捨五入による。

## 伸びる国産材生産量 - 木材供給量の推移 -



資料: 林野庁「木材需給表」

## 利用期を迎えている人工林 - 人工林の林齢別面積 -



資料: 林野庁「森林資源の現況」  
注: S56年は61年生以上をまとめて集計。

■ 森林・林業基本計画では、戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎えていることなどを背景に、森林を適正に管理しつつ、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、**社会経済生活の向上とカーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現**を目指すこととしている。

### 森林・林業・木材産業による「グリーン成長」 (イメージ)



### 森林・林業基本計画 (R3.6.15閣議決定) の概要

#### 森林資源の適正な管理・利用

- 適正な伐採と再生林の確保 (林業適地)
- 針広混交林等の森林づくり (上記以外)
- 森林整備・治山対策による国土強靱化
- 間伐・再生林による森林吸収量の確保強化



育成単層林



針広混交林

#### 「新しい林業」に向けた取組の展開

- イノベーションで、伐採→再生林保育の収支をプラス転換(エリートツリー、自動操作機械等)
- 林業従事者の所得と労働安全の向上
- 長期・持続的な林業経営体の育成



従来品種



エリートツリー



遠隔操作の伐倒機械

#### 木材産業の国際+地場競争力の強化

- JAS乾燥材等の低コスト供給 (大規模)
- 高単価な板材など多品目生産 (中小地場)
- 生活分野での木材利用 (広葉樹家具など)



大規模集材工場



地域材を活用した住宅

#### 都市等における「第2の森林」づくり

- 都市・非住宅分野等への木材利用
- 耐火部材やCLT等の利用、仕様設計の標準化
- 木材製品の輸出促進、バイオマスの熱電利用



木造の中高層建築物



海外展示会への出展

#### 新たな山村価値の創造

- 地域資源の活用 (農林複合・きのこ等)
- 集落の維持活性化 (里山管理等の協働活動)
- 森林サービス産業の推進、関係人口の拡大



住民の協働による里山整備



森林空間を活用した健康増進

川上

川中

川下

### 国産材の安定供給

#### 集積・集約化の推進

- 森林の経営管理の集積・集約化（森林経営管理制度）（H31年4月施行、R8年4月改正法施行予定）
- 所有者情報を取りまとめる林地台帳の整備（H29年4月施行、H31年4月本格運用開始）
- 経営基盤の強化に向けた森林組合法の改正（R3年4月施行）
- 林業経営を担う人材の育成・労働力確保
- 高性能林業機械の導入支援
- 重点的な路網整備

#### 国産材製品の供給拡大・競争力強化

- 製材・合板工場等の大規模化・高効率化



大規模製材工場

- 地域の製材工場・工務店等の連携



地域材を活用した住宅

### 木材の需要拡大・利用促進

#### 建築物への利用拡大、輸出促進 等

- 中高層・非住宅分野への木材利用の促進

- 製材等のJAS構造材の普及、CLT（直交集成板）や木質耐火部材等の開発・普及
- 都市（まち）の木造化推進法（R3年10月施行）



木造11階建て  
研修施設  
(2022年竣工)



CLT



木質耐火部材

- 輸出促進

- 丸太中心の輸出から付加価値の高い製品輸出への転換
- 住宅フェンス用スギ製材の輸出（米国へ）



- 木質バイオマスの利用促進

### 国有林の活用による安定供給

- 一定期間・安定的に国有林の立木の伐採を可能とする法制度を整備（樹木採取権制度）（R2年4月施行）

### 流通全体の効率化、合法伐採木材の流通促進

- 簡素で効率的な木材流通の実現

- 改正クリーンウッド法による合法伐採木材の流通及び利用の促進（R7年4月施行）

### 林業イノベーション

- デジタル化した森林情報の活用
- 先進的造林技術の導入・実践

- ICT生産管理の推進
- エリートツリー等の利用拡大

- 林業機械の自動化・遠隔操作化
- 木質系新素材の開発・実証

### 森林づくり・木材利用推進に向けた国民運動、森林由来J-クレジットの創出拡大

- 企業やNPO等の広範な主体による植樹等の推進
- ウッド・チェンジに向けた「木づかい運動」等の推進

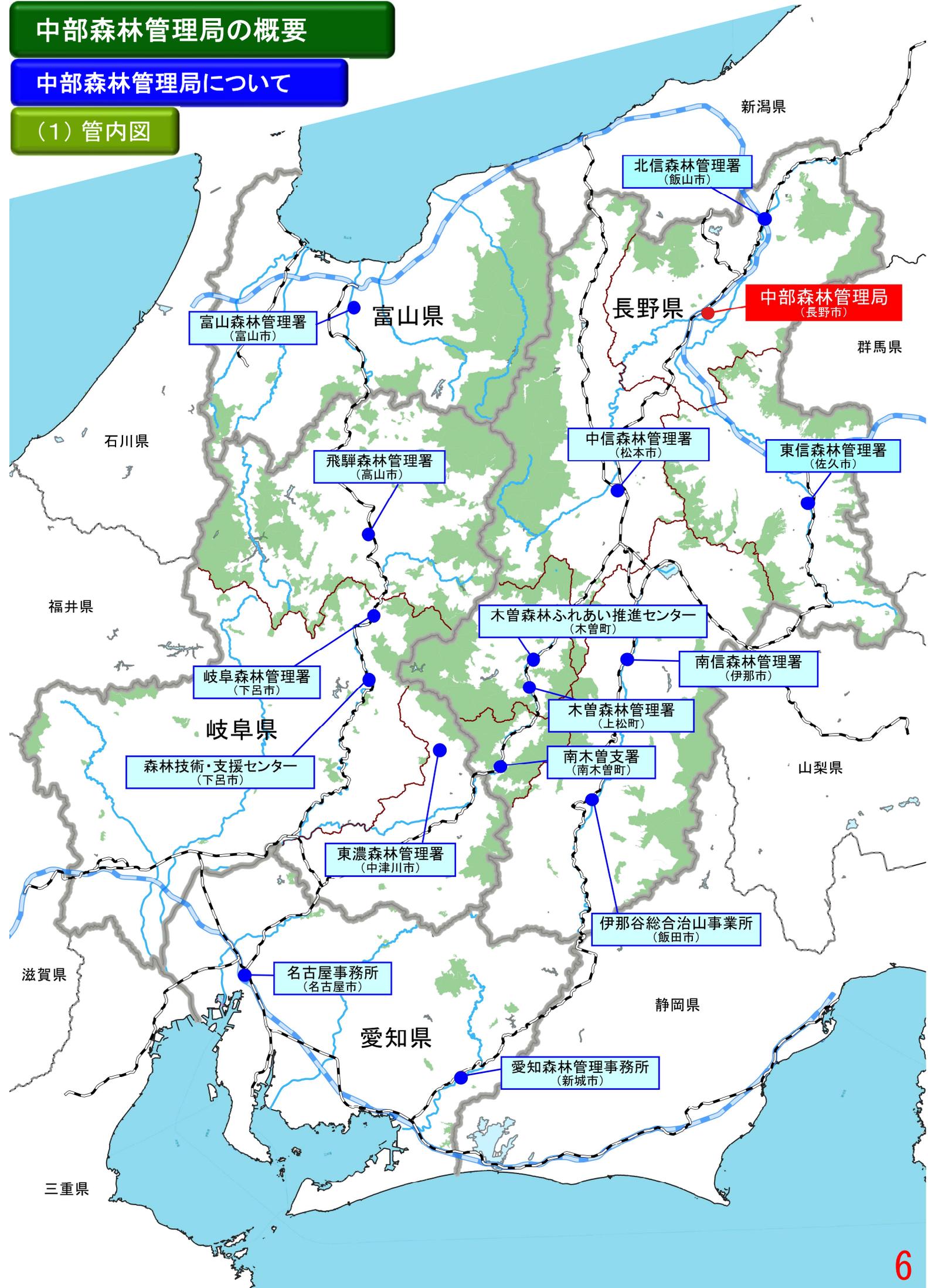
- 森林経営活動によるJ-クレジットの創出及び販売の促進を通じた収入機会の拡大

# 中部の国有林

# 中部森林管理局の概要

## 中部森林管理局について

### (1) 管内図



## (2) 沿革

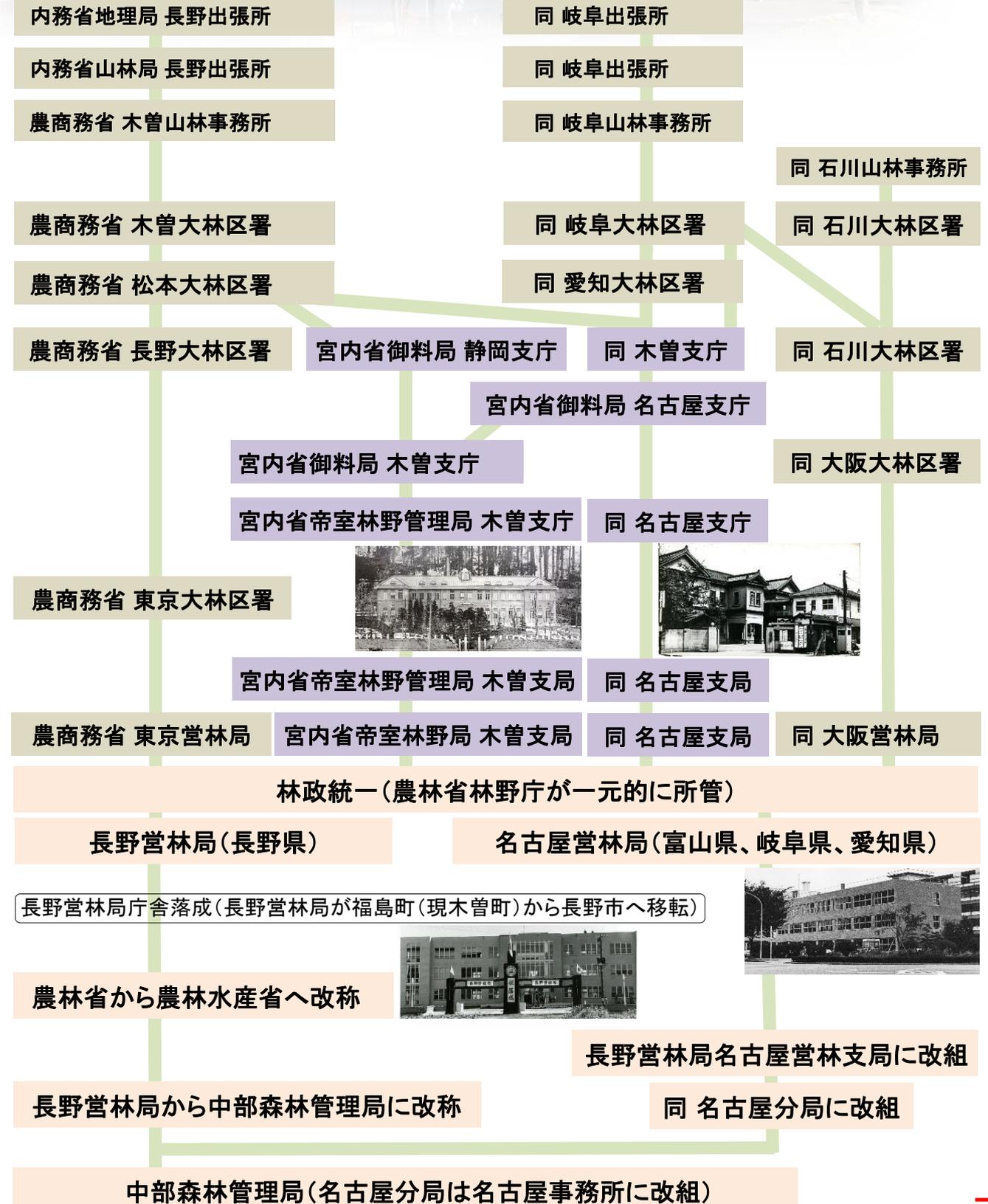
日本の国有林は、明治政府の成立とともに生まれました。各藩が所有していた「藩有林」と、お寺や神社の「社寺有林」を、国有化したことが始まりです。明治2年(1869年)から明治4年(1871年)にかけてのことでした。その後、従来の入会林(いりあいりん)の多くを官有林に編入して、広大な国有林が成立しました。

1867年  
(慶応3年) 大政奉還

1869年  
(明治2年) 版籍奉還により、藩有林の多くは官林に編入

1876年  
(明治9年) 山林所有区分を明確化する「官民有区分」の開始

旧帝室林野局木曾支局  
(現在は「御料館」として木曾町により一般公開中)



## (4) 中部森林管理局の特色

中部森林管理局は、富山県、長野県、岐阜県、愛知県の森林242万haの約3割を占める約65万haの国有林を管理しています。これらの国有林は、三河湾近くの標高16mから「日本の屋根」といわれる日本アルプス(最高峰:奥穂高岳3,190m)の山岳地帯まで広く分布し、その多くは地形が急峻な脊梁山脈や重要な水源の源流域に位置しています。

また、管内の国有林には原生的な森林も多く分布し、希少な野生動植物の生息地として学術的にも重要な森林も少なくありません。さらに、四季折々に表情を変え私たちの心を和ませてくれる、景観が美しい森林や森林浴などを楽しめる森林も各地にあります。

一方、生育しつつある人工林を主体として、国有林では、管内で年間に供給される国産材の約2割に当たる木材を生み出しており、これらは住宅や家具のほか、学校や体育館などの公共建築物や歴史的建造物などの材料として、私たちを豊かで潤いのあるものとしてくれています。

(中信署管内=穂高岳)

## (5) 局内の森林面積

中部森林管理局管内の国有林は、約半数がナラ類、カンバ類、ブナ科などの広葉樹やモミ、ツガなどの針葉樹からなる天然林、約3割がカラマツ、ヒノキなどの人工林、残る2割は高山帯の岩石地などで占められています。

### ◇4県別の国有林の占める割合◇

※管内4県に所在する国有林は、県域面積の約2割、森林の約3割を占めています。(面積の単位:万ha)

	県の面積 (a)	森林面積 (b)	うち国有林 面積(c)	(c/a) (%)	(c/b) (%)
富山県	43	28	10	23	36
長野県	136	106	37	27	35
岐阜県	106	86	17	16	20
愛知県	52	22	1	2	5
局計	337	242	65	19	27

※ 各県の面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」令和6年10月1日時点。

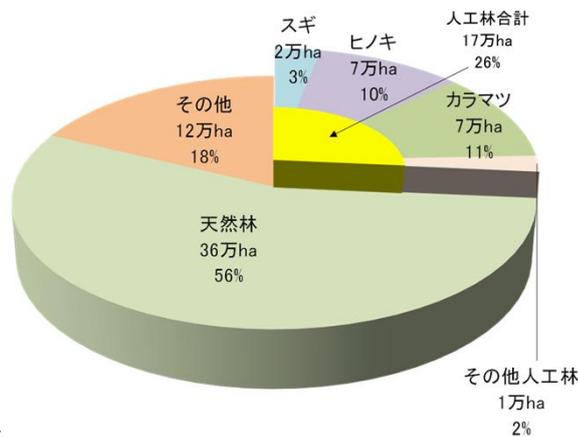
※ 県の森林面積については、各県への聞き取りによる最新値。

※ 小数点以下四捨五入により合計が合わない場合があります。

### ◇人天別、樹種別の面積◇

国有林面積:65万ha (令和6年4月1日現在)

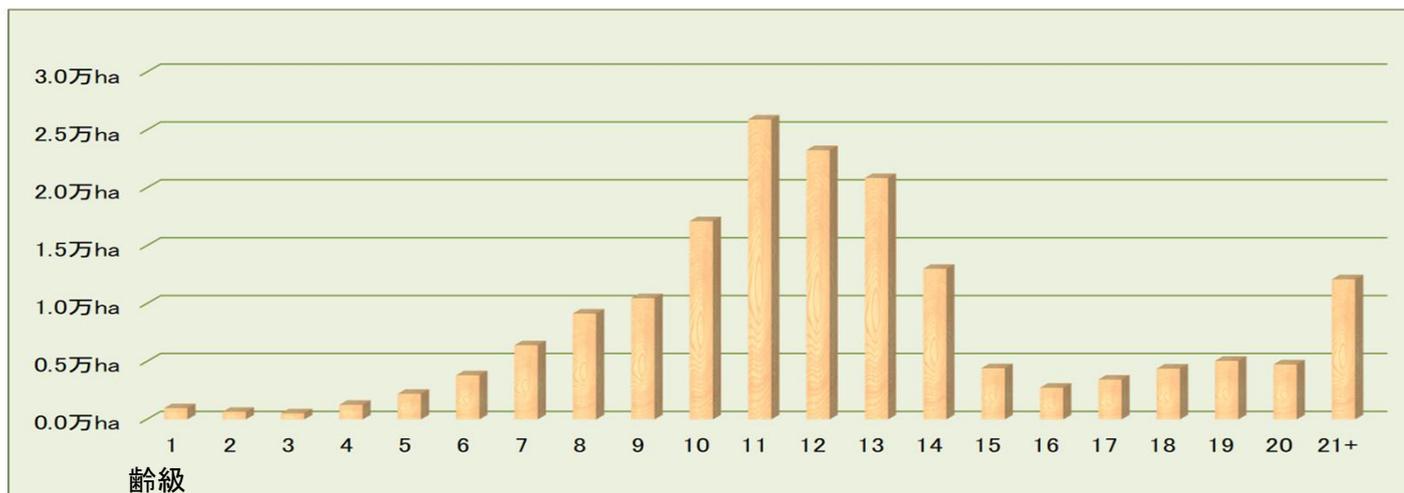
※ 小数点以下四捨五入により合計が合わない場合があります。



### ◇人工林の齢級別面積◇

人工林は、10~12齢級(46~60年生)の育成期の林分が主体となっており、健全で活力ある森林の育成のため、また、二酸化炭素吸収による地球温暖化防止のために間伐などの森林整備を積極的にすすめています。

また、約8割が50年生を超え、利用期を迎えています。



※ 齢級とは林齢を5年毎にくくったもので、1齢級は1~5年生を表します。

## (6) 国有林の森林の区分

### きのうるいけい ◇森林の機能類型◇

国有林では重視すべき機能に応じて森林を5タイプに区分し、公益重視の管理経営を行っています。

中部森林管理局管内は、その多くが急峻な脊梁山脈地帯であり、山地災害防止タイプが約4割を占めています。

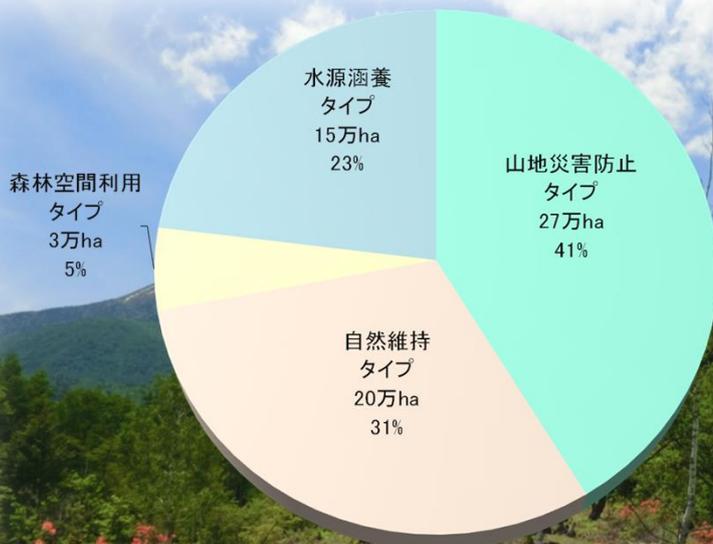
また、約3割を占める自然維持タイプは、森林の生態系を維持する森林として、原始的な天然林からなる自然景観の維持、動植物の保護など、自然環境を保全することを重視して森林を守り育てています。

木曽署管内(御嶽山=山地災害防止タイプ)

山地災害防止タイプ	土砂の流出・崩壊、雪崩、落石等の山地災害による人命・施設の被害の防止など、安全な国民生活を確保することを重視して森林を守り育てます。
自然維持タイプ	原始的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存など貴重な自然環境の保全を重視して森林を守り育てます。
森林空間利用タイプ	スポーツ又はレクリエーション、教養文化、休養等の活動の場や優れた景観の提供並びに都市及びその周辺の風致の維持を重視して森林を守り育てます。
快適環境形成タイプ	騒音の低減、大気の浄化、木陰の提供等による気象の緩和等人間の居住環境を良好な状態に保全することを重視して森林を守り育てます。
水源涵養タイプ	水源の涵養などの公益的機能に配慮しながら、森林資源の有効活用も考慮した森林を守り育てます。

### ◇機能類型別の面積◇

国有林面積  
65万ha (令和6年4月1日現在)



中信署管内(乗鞍高原=森林空間利用タイプ)

### 山地災害防止タイプ



(富山署管内)

### 自然維持タイプ



(飛騨署管内)

### 森林空間利用タイプ



(北信署管内)

### 水源涵養タイプ



(木曽署管内)

※小数点以下四捨五入により合計が合わない場合があります。

※現時点では中部森林管理局管内には、**快適環境形成タイプ**の森林はありません。

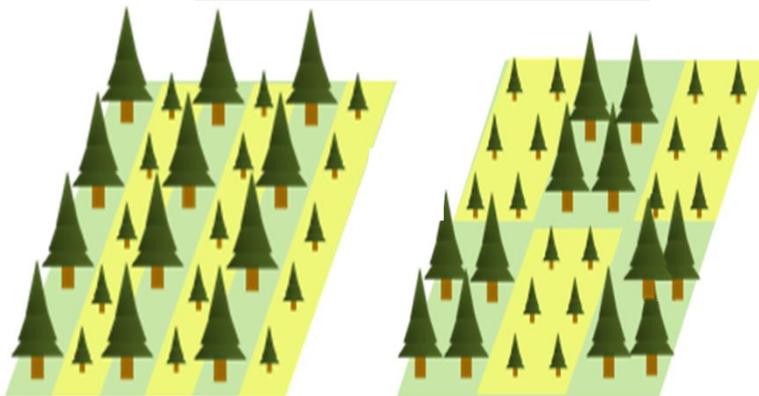
# 業務の内容

## 1. 公益重視の管理経営の一層の推進

### (1) 多様な森林への誘導

森林の有する公益的機能の一層の発揮の観点から、間伐の適切な実施に加え、林齢や樹種の異なる林分が帯状・群状(モザイク状)に配置された面的複層林や、様々な生育段階や樹種で構成される針広混交林など、多様な森林へ誘導する施業を推進します。また、山地災害が激甚化・多様化していることを踏まえ、急傾斜地等においては架線集材を行うなど、適切な集材・搬出方法を選択し、林地保全に配慮した森林施業を推進しています。

#### 面的複層林への誘導イメージ



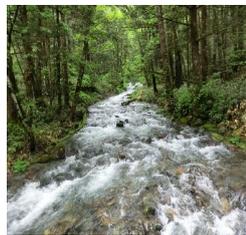
帯状

群状(モザイク状)

#### 〇 溪畔箇所における広葉樹の保残

ヒノキ人工林内の溪畔箇所において広葉樹を保残し、様々な樹種で構成される森林への誘導を行っている事例

(中信署管内)



#### ～～多様な森林への誘導事例～～

#### 〇 帯状伐採による面的複層林への誘導

ヒノキとカラマツが混交する人工林において、帯状の伐採区域と残存区域を交互に配置し、面的複層林への誘導を行っている事例

(中信署管内)



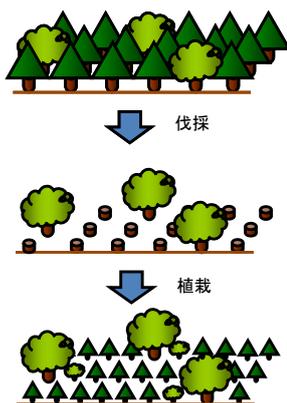
#### 〇 群状伐採による面的複層林への誘導

カラマツ人工林の主伐箇所において伐採区域と残存区域を群状(モザイク状)に配置し、面的複層林への誘導を行っている事例

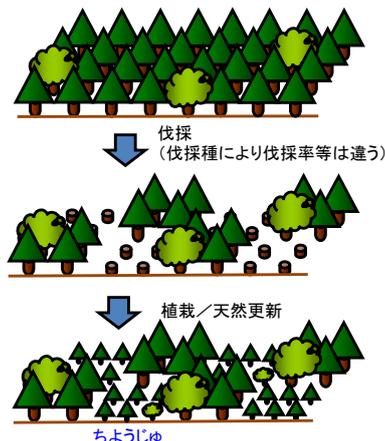
(東信署管内)



#### 針広混交林への誘導イメージ



#### 面的複層林への誘導イメージ



林内又は周辺に高木性広葉樹や天然生稚幼樹がある場合には、伐採時に保残し育成することにより、段階的に針広混交の育成複層林への誘導を図ります。

#### 目指す森林の状態



植栽や自然落下又は飛来する種子の発芽、生育によって、複数の樹冠層を成立させ、維持していきます。



針広混交林のイメージ

## (2) 優れた自然環境の維持・保存

### ◇保護林による管理◇

「保護林」とは、大正4年(1915年)に国有林独自に設けた制度で、原始的な天然林などを保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資することを目的とするものです。

中部森林管理局においても管内の「保護林」の保護管理に取り組んでいます。

【86箇所 計112,346ha (令和6年4月1日現在)】

#### 森林生態系保護地域

地域の気候帯又は森林帯を代表する原始的な天然林を保護・管理しています。

【5箇所 計30,354ha】



さぶりゅうやま

【佐武流山周辺森林生態系保護地域】

日本海側と太平洋側を結ぶ様々な植生分布



かなぎどがわ たかせがわ

【北アルプス(金木戸川・高瀬川源流部)森林生態系保護地域】

北アルプスを代表する原始的で多様な天然林



#### 生物群集保護林

地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理しています。【25箇所 計77,518ha】



とがくしやま

【戸隠山生物群集保護林】

天然林や人工林、湿原など多様な自然環境及び多種多様な野鳥が生息



のうごうはくさん

【能郷白山ブナ生物群集保護林】

日本海型の原始的ブナ群落



#### 希少個体群保護林

希少な野生生物の生育・生息に必要な森林を保護・管理しています。

【56箇所 計4,474ha】



【タテヤマスギ遺伝資源希少個体群保護林】

タテヤマスギが群生する原生林



きりうえ

【浅間山霧上の松希少個体群保護林】

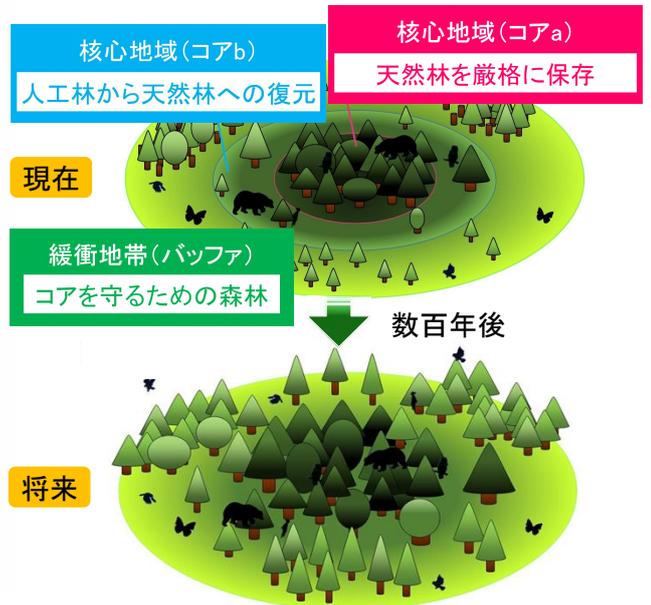
学術的に重要な浅間山麓の天然アカマツ林



## ◇木曾悠久の森◇

ヒノキ、サワラ等の温帯性針葉樹林で構成される木曾地方の約1万7千haを「森林生物多様性復元地域」(愛称:木曾悠久の森)に設定し、世界的にも希少で貴重な温帯性針葉樹林の保存や、人工林から天然林への復元に取り組んでいます。

さらに、このうち約1万haを「木曾生物群集保護林」に設定しています。



## ◇緑の回廊 [コリドー]の設置による、希少野生生物の保全◇

森林生態系の構成者である野生生物の多様性の保全には、その移動経路を確保し、生育・生息地の拡大と相互交流を促すことが必要とされています。

中部森林管理局では、<緑の回廊位置図>のとおり、保護林を中心としたネットワークを形成する「緑の回廊」を4箇所設定し、様々な野生生物の生育・生息地を結ぶことで、野生動植物種の保全に取り組んでいます。



ライチョウ



アツモリソウ



コマクサ



イヌワシ

### <緑の回廊 イメージ図>



### <緑の回廊 位置図>



- ① 緑の回廊雨飾・戸隠 (3,792ha)
- ② 緑の回廊八ヶ岳 (5,835ha)
- ③ 白山山系緑の回廊 (23,517ha)
- ④ 越美山地緑の回廊 (7,260ha) 【計40,404ha】

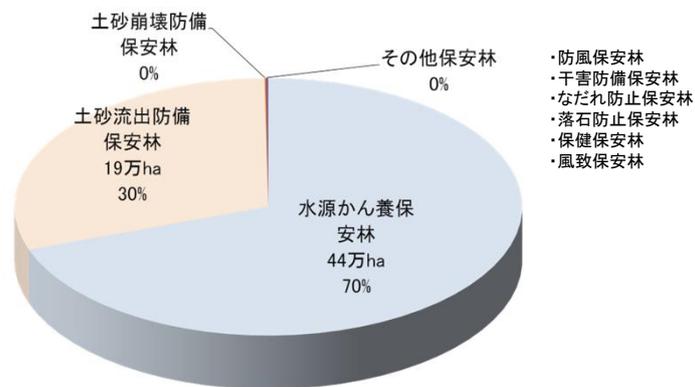
※小数点以下四捨五入により、合計が合わない場合があります。

### ◇暮らしを守る保安林◇

私たちの暮らしを守る役割を果たしている森林を「保安林」として指定し、森林の持つ水源のかん養や山地災害の防止などの機能が失われないように伐採を規制したり、適切な手入れを行うなどの管理を行っています。

中部森林管理局管内の国有林の約96%が保安林に指定されています。

保安林の内訳 63万ha(令和6年4月1日現在)



### ◇治山事業の実施◇

荒廃した山地の早期復旧や山地災害の未然防止のため、治山施設の設置や保安林の整備を推進します。また、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の取組として、治山施設の整備等による流木・土石流・山腹崩壊抑制対策を実施します。

### ◇国有林直轄治山事業の概要◇

国有林野内において、豪雨、地震及び火山噴火等に起因する山地災害を復旧・予防し、土砂・流木等の流出による下流域への被害を最小限にとどめるため、治山施設の設置や保安林の整備を計画的に実施しています。

独立基礎型流木捕捉工(富山署)



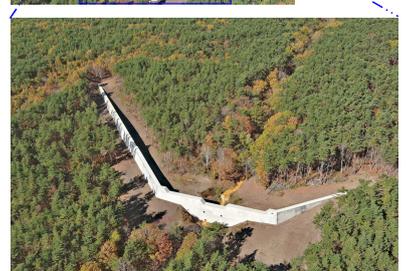
(施工中)



(完成)



山腹工(東濃署)



防災対策総合治山工事(東信署)



(流木捕捉)



(流木撤去)



溪間工(南信署)

### ◇民有林直轄治山事業の実施◇

民有林直轄治山事業は、高度な技術を必要とする場合などであって、国土の保全上特に重要であると認められるときに、国が民有林において実施するものです。

中部森林管理局管内においては、常願寺川地区(富山県)、小渋川・松川入地区(長野県)、姫川地区(長野県、新潟県)、板取川地区(岐阜県)において実施しています。



常願寺川地区



小渋川地区



姫川地区



板取川地区

## ◇災害発生時の対応◇

山地災害の発生時には、地方自治体など関係機関と連携した被災状況確認や復旧対策を実施するなど、迅速かつ効率的な災害対応に努めています。

### ヘリコプターによる被災状況確認及び職員派遣

令和6年能登半島地震に際し、富山県内の山地災害の状況を調査するため、富山県と合同でヘリコプターによる上空からの調査を実施しました。



関係機関との合同  
ヘリ調査の様子



山地災害対策緊急展開  
チームの活動状況

また、能登半島地震による山地災害等が甚大であったことから、石川県から、現地調査等に係る技術的支援の要請が林野庁本庁にありました。

これを受け、林野庁は山地災害対策緊急展開チームを編成し、中部森林管理局からは、2週間にわたり2名の技術者を派遣しました。

### 国有林林道の活用

令和3年8月の大雨により、長野県南部及び岐阜県東部を中心に大きな被害が発生しました。

当局では、関係県・市との合同でのヘリコプターによる被災状況を確認しました。

これらの調査結果については、緊急対応や復旧計画等に活用しました。

また、長野県王滝村では村道が崩落し、滝越地区の住民が孤立しました。村道復旧の長期化が予想されたことから国有林林道を迂回ルートとして活用しました。



関係県との合同  
調査の様子



国有林林道を経由し  
一時帰宅する住民  
(木曾署)

### 土石流センサー・監視カメラ・通報システムの活用

令和2年7月豪雨により、長野県南部及び岐阜県を中心に甚大な被害が発生しました。

当局では、関係県と連携しながら、ヘリコプターによる調査により、山腹崩壊や土砂の流出など被災箇所を確認しました。

この結果、長野県木曾町の日義国有林において河道閉塞(天然ダム)が確認され二次災害の発生が懸念されたことから、土石流の発生予測(シミュレーション)を行うとともに、住民の皆様へ速やかに情報提供ができるよう、土石流センサー・監視カメラ・通報システムを設置しました。



土石流センサー  
の設置  
(日義国有林)



## 2. 森林・林業施策全体の推進への貢献

### (1) 新しい林業の実現に向けたコスト縮減と生産性向上

#### ◇造林・保育のコスト縮減◇

伐採から造林までを一体的に行う「伐採・造林一貫作業システム」の実施により、地拵えコストの縮減に取り組んでいます。  
 また、成長の良い苗木(エリートツリー等)の活用や、下刈りの回数削減による効率化も進めています。

じこしら

#### 伐採・造林一貫作業システムによるコスト縮減



#### ◇生産性向上実現プログラムの取組◇

木材需要の拡大に伴う安定的・効率的な丸太の生産体制を確立するため、素材生産事業者、民有林行政担当者、有識者の方々と連携して生産性向上に取り組んでいます。

#### 【具体的な取組】

- ・現地検討会の開催
- ・日報のデジタル化による生産性の見える化
- ・林野庁主催「国有林間伐・再造林推進コンクール」への推薦



生産性向上プログラム現地検討会(愛知所)



生産性向上プログラム勉強会(東濃署)

## (2) 木材の安定供給とブランド材の需要拡大の推進

豊富で多様な森林資源を有する国有林野の特性を活かし、国産材の安定供給を下支えするとともに、伝統的建築物の修復用資材など特殊用途へのニーズにも対応しています。また、高品質材についてはブランド化による需要拡大を図り、地域の林業・木材産業に貢献しています。

### ◇協定締結による安定供給◇

国有林では、地球温暖化防止対策として間伐等の森林整備を推進し、木材による炭素の貯蔵にも貢献するため、間伐材の利用促進をしています。

『直送・大量・安定』で間伐材を大量かつ安定的な供給により、需要拡大を進めています。



山からの搬出



土場での仕訳



工場での加工



製材品



合板

国有林材の安定供給システム販売は、企画競争方式により選定された需要者と、事前に安定供給の協定を締結し、丸太等を直接・安定的に供給する販売方法です。

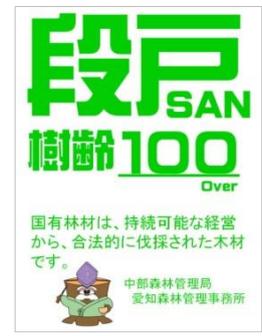
なお、造林コストの低減、資源の有効活用のため、製品生産事業地等で発生する末木枝条等(D材)をバイオマス関連の方々に販売を進めています。

末木枝条等(D材)



### ◇高品質材のブランド化による需要拡大◇

高齢級・高品質な人工林材を「**高** **国** 木曾(東濃)ひのき」、「段戸SAN(ヒノキ)」、「信州プレミアムカラマツ」と銘打ってブランド化して需要拡大を図っています。



長野県の「信州プレミアムカラマツ」



木曾、東濃の「**高** **国** 木曾ひのき」



段戸国有林(愛知県)の「段戸SAN」

## ◇特殊な用途への林産物の安定供給◇

管内には日本を代表する木曽ヒノキなどの多様な森林資源があり、国有林ならではの太径長尺材などを文化財の修復や伝統工芸などの資材として、木の文化を守るために供給しています。

(伝統工芸等の作業風景と製品の一部を紹介します。)



ろくろ細工



桧笠



サワラの桶



諏訪大社の御柱用の  
モミを供給



文化財などへの天然  
木曽ヒノキの供給



ネズコのへぎ板技術を駆使して作製された網代編みによる茶室の天井と衝立



ひわだぶ  
檜皮葺き用資材の供給



屋根葺き材として  
利用される天然サワラ

## ◇木材利用の推進◇

公共団体等の庁舎建築のほか、改修、内装、オフィス家具に、国有林から産出される木材を積極的に供給して、国産材の利用推進へのPRに努めています。



木曽町役場庁舎



上松町役場庁舎



東御市滋野保育園保育室



妻籠町並み交流センター



CLTを使用した庁舎玄関  
(森林技術・支援センター)

「木育」の活動を広げるため、木に親しみ、木を活かす場の作成の為シンボルツリーとして天然木曽ヒノキを枝付きのまま供給しました。

今後も、「木育」に協力し、木材利用を推進するためするために、木材の供給に協力して行きます。

(写真: 木曽おもちゃ美術館)

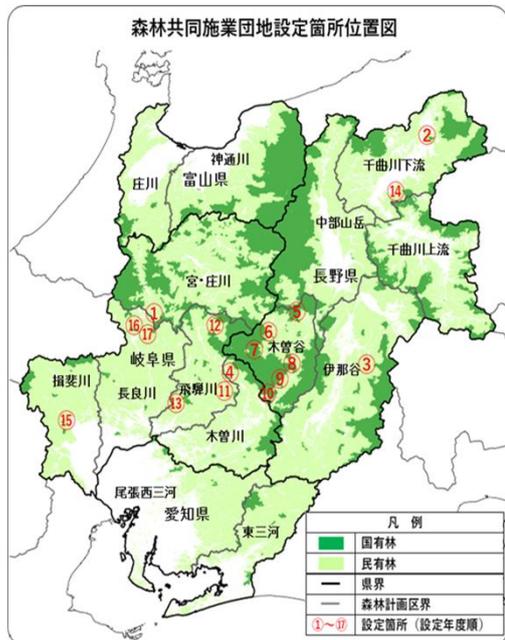


枝付き丸太の供給  
(木曽署)

### (3) 民有林との連携

#### ◇森林共同施業団地◇

森林共同施業団地は、森林管理署等と地方自治体、民有林所有者等が協定を締結し、民有林と国有林が隣接する地域の森林において、路網整備や間伐等の森林整備、木材の協調出荷等を連携して進める仕組みです(局管内に17箇所設定)。



民国連携事業の一環として活用されている藪原土場に集積されたカラマツ(木曽署)



国有林を通過する林道を作設することで、民有林での施業が可能となったケース(岐阜署)



民有林材との共同システム販売(木曽署)

#### ◇民有林との技術交流◇

国有林で取り組んでいる多様な森林づくり、造林・木材生産の低コスト化等につながる成果について、現地検討会や森林・林業交流発表会の開催等を通じて、民有林関係者との技術交流を行っています。



Web勉強会  
～林業の現場で使える森林情報～  
(飛騨署)



ヒノキ長伐期施業林の見学  
(森林技術・支援センター)



中部森林・林業交流発表会  
(中部局)

研修等により、市町村の林野行政を支援する森林総合監理士(フォレスター)の育成を推進するとともに、大学や研究機関等と連携し、森林・林業技術者を対象とした現地実習などを行っています。



ICT研修  
(森林技術・支援センター)



大学生による治山工事  
現場視察(伊那谷総合治山事業所)

### (4) 樹木採取権制度の活用



樹木採取権制度は、安定的な事業量の確保を通じた林業事業体の育成を目的として、国有林の一定区域(樹木採取区)において一定期間・安定的に樹木を採取できる権利を、公募により設定する仕組みです。

樹木採取権の設定を受けた林業事業者による樹木の採取(東信署)

## (5) ニホンジカ被害対策

これまで大切に育ててきた人工林や、絶滅のおそれがある希少な動植物などの多様な動植物をニホンジカ等の鳥獣による被害や人的被害から守るため、地元市町村やボランティアなどと連携しながら森林を巡視し、被害の早期発見や未然防止対策を行っています。

特にニホンジカによる被害は、苗木の食害や立木の剥皮などにより林業経営に影響を及ぼすだけでなく、下層植生の消失や表土流出により森林の公益的機能の発揮が阻害され、地域全体への影響が懸念されます。

このため、中部森林管理局では、被害の低減に向けて、地方自治体、猟友会、対策協議会、学識経験者等と連携しながら、「攻め」(捕獲)と「守り」(防護)の両面でシカ被害対策に取り組んでいます。

### ◇攻めの対策◇

シカの捕獲にあたっては、事業者への委託をはじめ、市町村・猟友会等へのわな貸出しなど、地域ぐるみの取組を行っています。また、林野庁職員が開発した高い捕獲効率が期待できる「小林式誘引捕獲法」の普及に努めているほか、わな設置後の見回り負担を軽減できる「捕獲通知システム」の導入などにも取り組んでいます。

#### 【小林式誘引捕獲法】

餌を食べるときに前足を出すシカの習性を利用した捕獲法。周りに餌をまいておくと、採餌時に前足がわなにかかる仕組み。



#### 【捕獲通知システム】

わなが作動すると、監視装置(子機)から親機に通知(LPWA)され、携帯電話回線(LTE)で端末へ通知。



小林式誘引捕獲法現地検討会  
(東信署)

### ◇守りの対策◇

シカによる苗木の食害が懸念される地域では新植地の周囲、および希少な高山植物等を保護する観点から必要になった場合には状況に応じて防護柵を設置しています。

防護柵の設置は、平成20年度以降で累計約300km以上を設置しました。



シカの食害にあった苗木(左)と、食害の為に枯死(右)してしまった苗木。



苗木を守るために新植地域を囲った防護柵



立木を支柱として利用した低コストな防護柵 (東濃署)



防護柵や支柱等を、ドローンを利用して運搬することにより省力化と効率化を図っています。(愛知所)

### 3. 「国民の森林」としての管理経営

#### (1) 双方向の情報受発信

国民共通の財産である国有林野の管理経営にあたっては、国有林野事業への理解が得られるよう、双方向の情報受発信、森林環境教育、国民参加の森林づくりに取り組んでいます。

##### ◇国有林モニター◇

一般公募により選定した「国有林モニター」を対象に、国有林の取組等に対するアンケート調査、現地視察会を実施し、頂いたご意見を管理経営に活かす取組を実施しています。



国有林モニター現地視察(北信署)

##### ◇現地見学会の開催◇

地域住民の方々に国有林をより身近に感じてもらうための取組として、各署等において、国有林の各種事業の現地見学会を開催しています。



生産事業の現地見学会  
(名古屋事務所・南木曾支署)



地域住民を対象に行った  
治山事業の現地見学会(飛騨署)

##### ◇国有林の森林計画の策定◇

森林計画の策定にあたり、国有林の森林資源や整備状況、利活用等に関する情報を提供するとともに、ホームページ等により意見を募集し、幅広い情報や要請を計画に反映すべく取り組んでいます。

#### (2) 森林環境教育の推進

地域の関係者との連携による森林環境教育などの普及啓発活動をはじめ、国有林内で森林づくり活動を行いたいという民間団体・企業等へのフィールド提供や助言などを行っています



ネイチャーゲームによる  
教職員への森林教室  
(木曾森林ふれあい推進センター)



小学生への森林教室  
森の学校  
(南信署)



中学生の職場体験  
(東濃署)



民間団体・企業等への  
森林整備の技術指導  
(木曾森林ふれあい推進センター)

多様で豊かな自然環境を持つ国有林野のフィールドを、自ら森林づくりを体験したい、森林づくりを通じて社会貢献をしたい、森林の役割を学ぶ森林教室を行いたいなどのニーズに応えるため、これらを希望するNPOや企業等が、継続的に国有林野を利用できる「協定締結による国民参加の森林づくり」を推進しています。

#### 「遊々の森」

設定数  
13



つながる遊学の森(飛騨署)

学校などの教育機関が、さまざまな体験活動や学習活動を行うためのフィールド。

森林の利用を通じた子どもたちの人格形成や、幅広い知識の習得を行う森林環境教育の場として利用いただけます。

#### 「ふれあいの森」

設定数  
9



大樹の森・赤沢(木曾署)

植林や保育など森林整備活動に参加したいというボランティア団体等による、自主的な森林づくり活動のためのフィールド。



森林・林業再生モデル林(北信署)

#### 「社会貢献の森」

設定数  
4



風とせせらぎの森林(富山署)

地球温暖化防止など地球環境保全への関心が高まっている中、企業の社会的責任(CSR)活動などを目的とした森林整備活動のためのフィールド。

#### 「木の文化を支える森」

設定数  
8

歴史的な木造建造物や伝統工芸などの「木の文化」を後世に継承していくための森林づくり活動を行うためのフィールド。

地方公共団体などで構成される地域の協議会による植樹や下草刈などの活動が行われています。



ひわだ  
檜皮の森(南木曾支署)

#### 「多様な活動の森」

設定数  
12



松ぼっくりの森(東信署)

歩道の草刈、自然観察、美化活動、森林パトロールなどの森林の保全活動を行うためのフィールド。

## (4) レクリエーションの森

国有林では国土保全や自然保護との調和を図りつつ、自然観察や森林浴、野外活動などに広く利用されることを目的として、「レクリエーションの森」を設定しています。

地元市町村をはじめ地域関係者の方々が連携し、登山や観光スポット、スポーツの場として国有林の多様な森林環境が活用されています。

### 自然休養林（11箇所）

特に景観に優れ、保健休養に適した森林で、自然探勝や散策、キャンプなど複合的なレクリエーションを楽しむことができます。



とがくし・おおみね  
戸隠・大峰自然休養林  
(長野県長野市)

### 自然観察教育林（16箇所）

自然の変化に富み、小中学生の自然観察学習に適した森林で、野生動植物の観察や森林のほたるきなどを学ぶことができます。



豊橋自然観察教育林  
(愛知県豊橋市)

### 風致探勝林（30箇所）

湖沼、渓谷などと一体となり、潤いある自然景観を構成している地域で、様々な樹木や自然美を楽しむことができます。



びじょだいら  
美女平風致探勝林  
(富山県立山町)

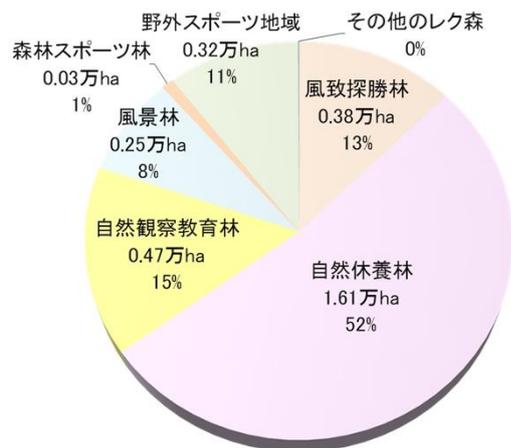
### 森林スポーツ林（4箇所）

森林とのふれあいやアウトドアスポーツに適した森林で、キャンプやサイクリングなどで自然を体感できます。



ゆうもり  
夕森森林スポーツ林  
(岐阜県中津川市)

## レクリエーションの森の設定状況



レクリエーションの森 設定面積  
3万ha (R6年4月1日現在)

※ 小数点以下四捨五入により合計が合わない場合があります。

### 野外スポーツ地域（16箇所）

スキー場や附属施設が一体となった地域で、雄大な自然の中で爽快な汗を流すことができます。



野沢温泉野外スポーツ地域  
(長野県野沢温泉村)

### 風景林（10箇所）

名所、旧跡などと一体となって景勝地を形成している森林で、森林の雄大な景観と地域の歴史を感じることができます。



ビーナスライン風景林  
(長野県小県郡一松本市)

## ◇日本美しい森 お薦め国有林◇

レクリエーションの森の中で、特に魅力的で観光資源としての活用が期待される箇所が、「日本美しい森」として平成29年4月に全国で93箇所の国有林が選定されました。中部森林管理局管内では10箇所が選定されています。

あかさわ

## 赤沢自然休養林

所在地：長野県木曾郡上松町



樹齢300年を超える木曾ヒノキの森を満喫できる散策コースを8つも備える「森林浴」発祥の地。大正から昭和に活躍した森林鉄道に乗車することができ、清流からの爽やかな風が心地いい。

つがいけ

## 柵池湿原風致探勝林

所在地：長野県北安曇郡小谷村／白馬村



ゴンドラとロープウェイを乗り継いで、日本有数の高層湿原が広がる柵池自然園へ。約5.5キロの遊歩道で初夏の花々、秋の紅葉をトレッキングで楽しむ。

ゆのまる・たかみね

## 湯の丸・高峰自然休養林

所在地：長野県上田市／東御市／小諸市



グリーンシーズンは登山から湿原の散策まで満喫できる。初夏のレンゲツツジ群落が山を彩る様は圧巻。冬はスキーやクロスカントリーも人気のスポット。

たきごし

## 滝越森林スポーツ林

所在地：長野県木曾郡王滝村



立ち枯れた木々が顔を出す御嶽自然湖は、釣りやカヌーツアーが人気。大自然が織りなす景観の美しさは写真スポットとしても有名。

くらがり

## 闇苧溪谷風致探勝林

所在地：愛知県岡崎市



夏には、キャンプや川遊びを楽しむ家族連れで賑わう。溪谷沿いでは、不動の滝、さるとび岩など「くらがり八景」と呼ばれる景勝地の散策が楽しめる。

とがくし・おおみね

## 戸隠・大峰自然休養林

所在地：長野県長野市／上水内郡信濃町



戸隠神社奥社参道に隣接する戸隠森林植物園は、一年を通じ様々な野鳥の鳴き声で彩られる。冬は2mを超える積雪の中でのスノーシュー散策が人気。春先、戸隠ならではの特大サイズの水芭蕉は圧巻。

こまがたけ

## 駒ヶ岳風致探勝林

所在地：長野県駒ヶ根市／上伊那郡宮田村



駒ヶ岳ロープウェイで標高日本一の千畳敷駅へ。目の前に広がる千畳敷カールは、可憐な高山植物と真っ青な空、陰しい岩肌の共演。余所で味わえない絶景スポット。

おんたけ

## 御岳自然休養林

所在地：岐阜県下呂市／高山市



冬はスキー、初夏から秋には散策や滝巡りで人気のスポット。高地トレーニング施設を擁し、御嶽山7合目に位置する濁河温泉は、茶褐色の温泉が湧く高所温泉地として知られる。

ひだはくさんしらかわごう

## 飛騨白山白川郷自然休養林

所在地：岐阜県大野郡白川村



世界遺産の白川郷から車で約1時間。白山山麓に広がるエメラルドグリーンの湖が美しい秘境。静寂に包まれたブナの原生林や、しなやかに流れ落ちる白水の滝もあわせて散策できる。

きんかざん

## 金華山自然観察教育林

所在地：岐阜県岐阜市



「天然の要塞」とも表される切り立った崖が市街地から目を引く。ロープウェイで山頂の展望台や岐阜城に気軽に上れるため、休日は多くの観光客で賑わう。

(参考)

最近の治山事業の取組状況

# 1 災害対応の取組事例

## 長野県松本市 上高地における対策

- 令和6年7月、年間入込者数150万人を誇る観光地「上高地」の六百沢において土石流が発生し、上高地を流れる梓川左岸の上高地登山歩道が被災しました。この歩道の被災により、奥地の宿泊施設への唯一の車両（軽車両）通行手段が喪失しました。
- この土石流に対しては、安全対策として土石流センサー等を設置するとともに、応急的な対策工（強靱ワイヤーネット及び大型土のうの設置）を実施することで安全を確保しました。本復旧対策（治山ダム）については、現在、実行中です。



土石流による既設治山ダムの被災状況



歩道被害状況

上高地地区位置図



※上高地旅館組合HPを加工し作成

### 土石流発生時の気象条件（気象庁情報）

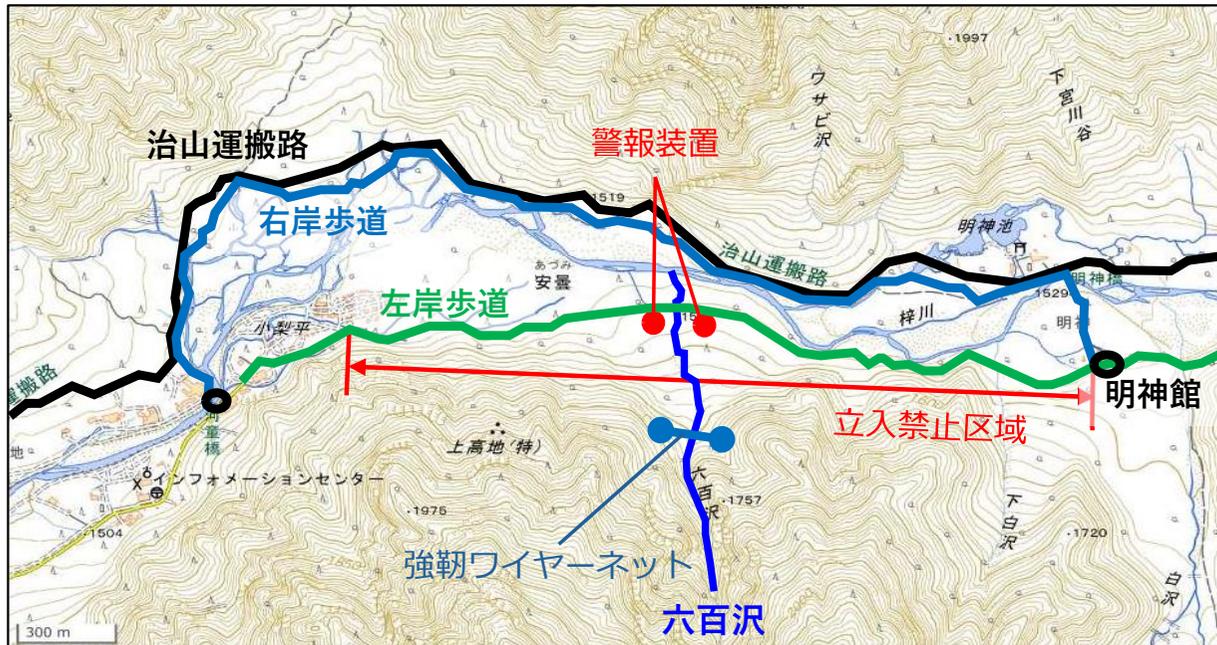
#### ▼雨量データ

長野県松本市上高地：最大24時間雨量 151.5mm（6月30日10:00～7月1日10:00）  
最大時間雨量 24.0mm（7月1日7:00～8:00）

# 1 災害対応の取組事例

## 長野県松本市 上高地における対策

- ソフト対策として、一般者の安全確保を図るための通行止措置、宿泊施設関係車両の一時的な通行を確保するための警報装置等を設置しました。
- 当面の土石流対策として応急工事（強靱ワイヤーネット等）を実施しました。



一般者の通行止措置（R6.8.8撮影）



強靱ワイヤーネット工



雨量計設置状況（R6.8.20撮影）



警報装置設置状況（R6.8.7撮影）

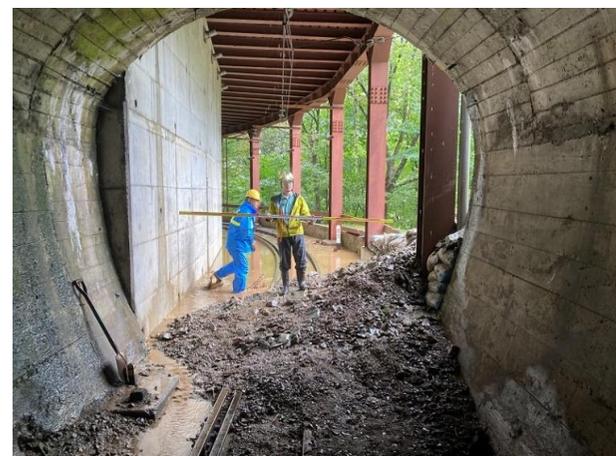
# 1 災害対応の取組事例

## 富山県黒部市 黒部渓谷における対応

- 令和6年9月の豪雨により、黒部峡谷鉄道の線路内に土砂が流入する被害が発生しました。災害関連緊急治山事により、雪融けを待って復旧対策（導流堤）に着手し、現在、実行中です。



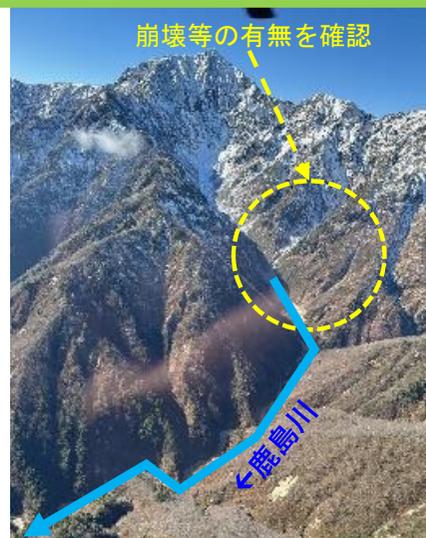
上流からの土砂流出状況



土砂が流入した線路の状況

## 長野県大町市 鹿島川流域における対応

- 令和6年11月、北アルプスを源流とする鹿島川が白濁したとの通報を受け、上流域の斜面崩壊の可能性も想定し、地元自治体職員と合同でヘリコプター調査を実施しました。
- 調査の結果、崩壊等は確認されなかったことから、経過観察しています。



白濁した鹿島川流域

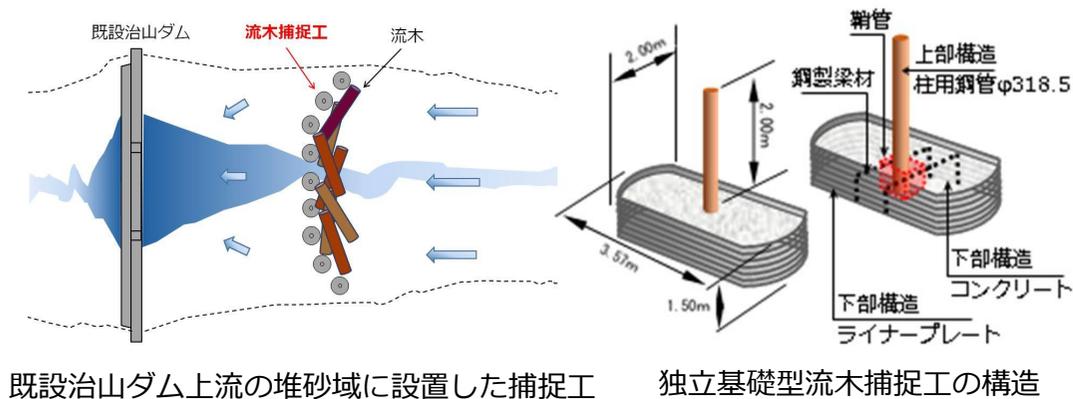


ヘリコプターによる上空からの調査

## 2 流木対策の事例

### 独立基礎型流木捕捉工の取組

- 中部森林管理局では、流木災害の防止・軽減や既設治山ダムの有効活用を図るため、新たな流木捕捉技術として「独立基礎型流木捕捉工」を考案し、管内4署において試験施工をうとともに「設計・施工ガイドライン」及び「調査・計画ガイドライン」を策定したところです。
- このうち、富山県魚津市片貝国有林（東又谷）に設置した箇所において、令和4年8月の降雨により流木を捕捉しました。
- 令和5年度以降、流木化が想定される立木及び倒木量の調査と試験施工地におけるモニタリング調査を実施しており、調査結果を踏まえ、さらなる検討・改良及び普及に取り組んでいます。



既設治山ダム上流の堆砂域に設置した捕捉工

独立基礎型流木捕捉工の構造

富山県魚津市に設置した独立基礎型流木捕捉工



完成時の状況



流木を捕捉した状況

### 独立基礎型流木捕捉工の補修

- ・ 令和5年2月に発生した雪崩により、流木捕捉工が被災しました。
- ・ 雪崩により上部構造の柱用鋼管が変形したため、令和6年度に取り換え等の補修を実施しました。



雪崩の状況



変形状況



補修の状況

# 3 流域治水の取組事例

## 岐阜県高山市 高原川流域における砂防部局と連携した流域対策

- 岐阜県北部及び富山県を流れる神通川流域では、平成11年、平成16年、平成18年に流木の流出による災害が発生し、下流域を中心に甚大な被害を受けました。
- これまで神通川流域では、富山県・岐阜県内の関係機関による「流木対策連絡調整会議」等を通じて、継続的な情報共有を行ってきました。
- 令和5年度からは、神通川水系の高原川流域（岐阜県高山市）において治山・砂防事業を実施している林野部局と砂防部局が、共通認識の形成を目的とした取組を開始し、それぞれの事業の調査・検討内容等に関する意見交換や情報共有を進めてきました。
- 令和6年度には、両部局がそれぞれ事業を実施している箇所において、合同現地踏査及び意見交換を実施し、連携の強化を図りました。



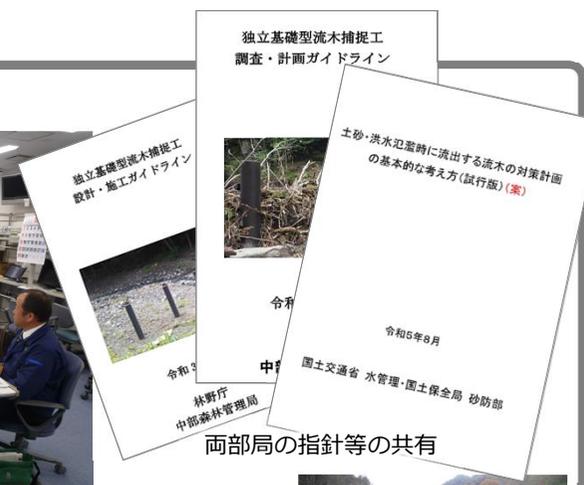
### 被害状況



### 流木対策の効果事例



### 連携強化の取組



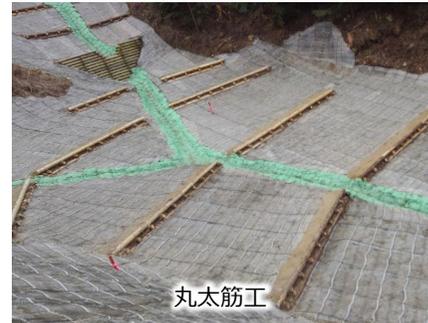
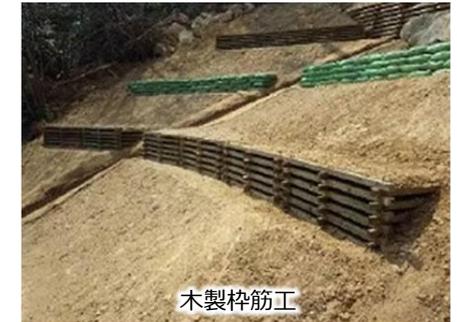
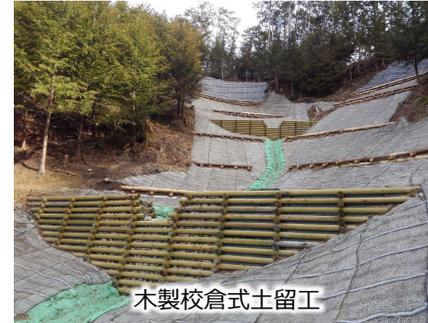
# 4 木材利用の取組事例

- 中部森林管理局では、「農林水産省木材利用推進計画」に基づき、公共土木工事における木材利用の促進に取り組んでいます。
- 具体的な木材利用事例として、コンクリート治山ダム等の構造物への「木製残存型枠」や、山腹工等における「土留工」「筋工」、地すべりにおける「防護柵」等に使用しています。治山ダムでは、軽量の平割材の使用が多くなってきています。

## 治山ダムでの使用



## 山腹での使用



# 5 業務の効率化（現場環境改善の取組事例）

## 低軌道通信衛星を利用した遠隔臨場等の取組

- 山間僻地での通信エリア圏外における工事では、従来、遠隔臨場を実施するために携帯電話と同じLTE通信を中継域リレー方式で確保していましたが、通信状態が不安で通信速度が遅い、リレー回数が多く機器設置箇所が増加、機器設置に伴う労務コストの増加、通信機器の保守に専門技術者が必要といった課題がありました。
- これらの課題に対し、低軌道通信衛星を活用して高速通信環境を導入した結果、以下の改善が見られました。
  - ・通信速度が従来の倍以上に向上し、画像や音声が鮮明に
  - ・中継機器が不要となり、設置作業や維持管理コストが縮減
  - ・リアルタイムで気象の変化を確認可能
  - ・現場作業の隙間時間に下請業者や生コン工場との連絡が可能となり、作業効率が向上
  - ・ライブカメラの設置により、豪雨後の現場状況を事前に確認でき、段取りが容易に
  - ・中継器の設置により、休憩所にも通信環境を導入でき、現場環境の改善に寄与
- 2024年から建設業界にも残業時間の上限規制が導入されています。ネット環境がない場合、会社に戻ってから仕事を行う必要がありますが、現場事務所に通信環境を整備することで、現場での事務仕事が可能となり、働き方改革にも資すると考えられます。

